

令和2年度一般会計決算審査関係資料

令和3年8月31日 消防本部警防課

令和2年

災 害 概 況
(1月から12月)

かすみがうら市消防本部

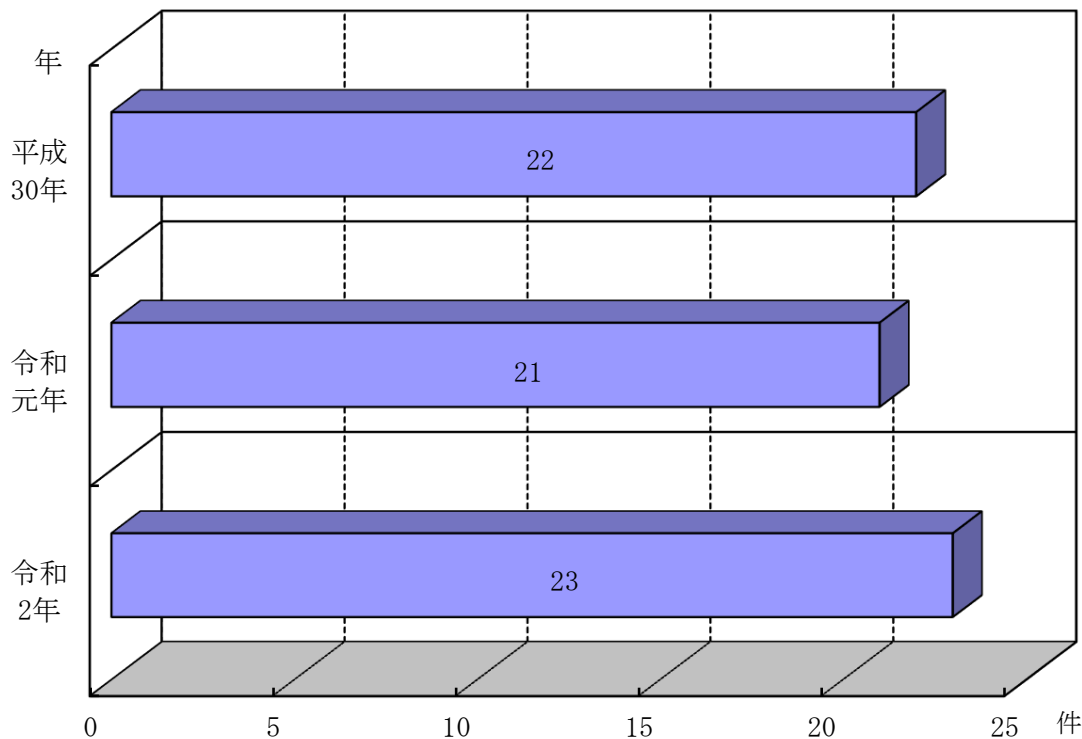
火災発生状況

月別	署別			火災種別				焼損棟数				焼損面積		死傷者数		り災世帯数			り災者数	計	損害見積額(千円)					
	計	西消防署	東消防署	建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物	林野	死者	負傷者	計	全損			半損	小損	建物	林野	車両	その他
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	10	6	4	1	0	2	7	3	1	0	2	0	67	0	0	0	3	1	0	2	3	7,395	7,198	0	197	0
3	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	50	0
4	3	2	1	1	0	0	2	1	1	0	0	0	489	0	0	0	0	0	0	0	0	33,647	33,647	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	264	0	0	75	189
7	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	23	23	0	0	0
8	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4	2	2	0	0	0
9	2	0	2	2	0	0	0	2	1	0	1	0	36	0	1	0	0	0	0	0	0	497	497	0	0	0
10	1	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	1	212	0	1	2	1	1	0	0	5	20,780	20,780	0	0	0
11	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0
12	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	902	902	0	0	0
合計	23	12	11	9	0	4	10	12	4	1	3	4	844	0	2	2	7	2	0	5	15	63,560	63,049	0	322	189

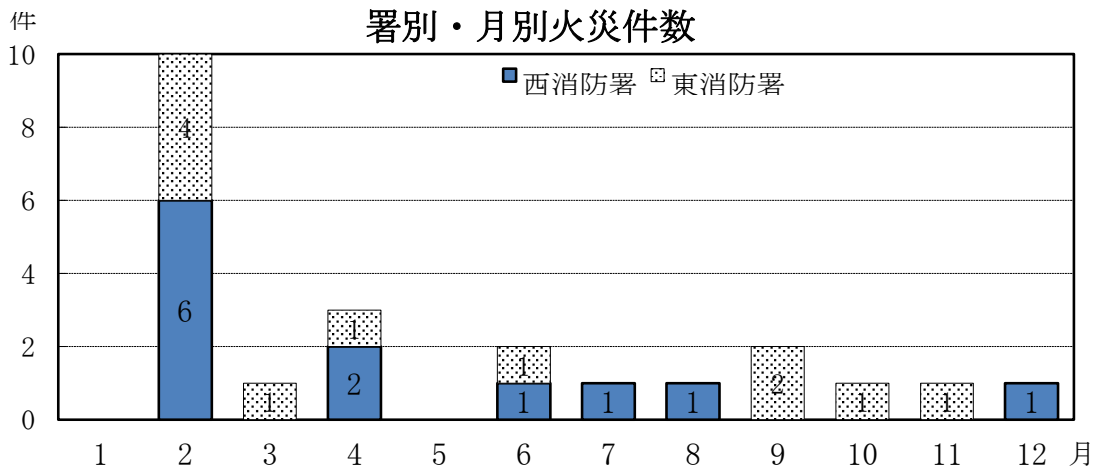
署別	12	西消防署	4	0	2	6	8	2	1	2	3	108	0	0	0	5	1	0	4	8	8,210	8,125	0	85	0
	11	東消防署	5	0	2	4	4	2	0	1	1	736	0	2	2	2	1	0	1	7	55,350	54,924	0	237	189

「火災」とは、人の意図に反して発生し若しくは拡大し、又は放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するために消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするもの、又は人の意図に反して発生し、若しくは拡大した爆発現象をいう。過去3年間におけるかすみがうら市内の火災件数は下表の通りである。

過去3年間火災件数

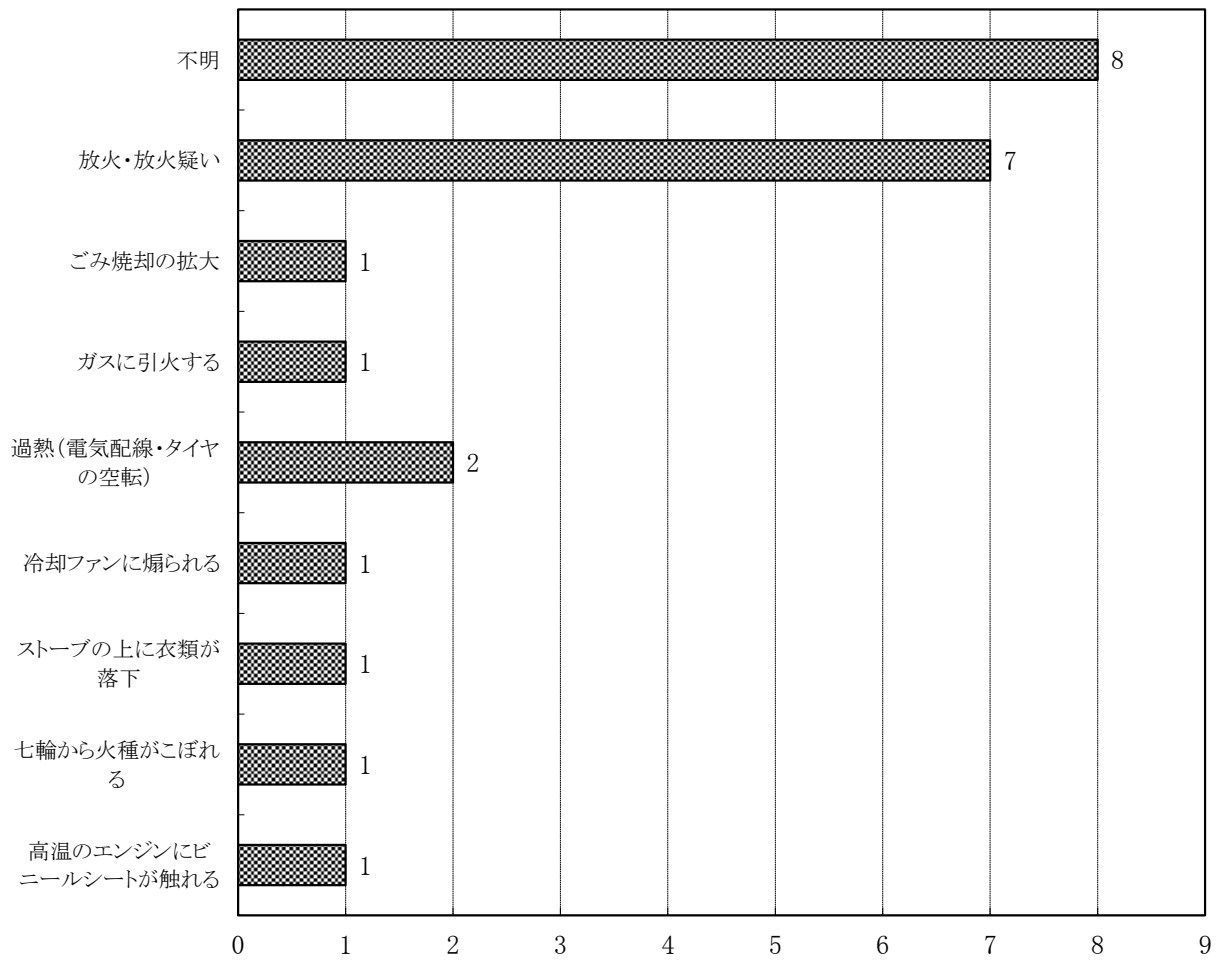


署別・月別火災件数



出火件数を四季別にみると第1四半期（1月～3月）11件、第2四半期（4月～6月）5件、第3四半期（7月～9月）4件、第4四半期（10月～12月）3件となっている。火災は火気使用頻度の多い冬から春先にかけて多く、高温、多湿の夏季は比較的火災が少ないのが例年の状況である。

原因別火災件数



火災・救急・救助以外の出場件数

出場種別	署別		
	計	西消防署	東消防署
非 火 災	7	4	3
危 険 排 除	39	21	18
怪 煙 偵 察	3	0	3
誤 報	3	3	0
管 外	1	1	0
そ の 他	411	239	172
計	464	268	196

月別・事故種別救急出場件数

月 別	署 別		事 故 種 別											計
	西 消 防 署	東 消 防 署	火 災 事 故	自 然 災 害 事 故	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害 事 故	運 動 競 技 事 故	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	
1	92	56	0	0	0	11	2	0	37	0	0	97	1	148
														0
2	83	58	2	0	0	13	1	0	24	1	2	97	1	141
	(1)											(1)		(1)
3	90	52	1	0	1	14	0	0	31	0	1	92	2	142
	(1)											(1)		(1)
4	70	56	1	0	0	7	1	0	17	0	0	98	2	126
														0
5	70	56	1	0	1	7	2	0	24	0	0	90	1	126
	(1)											(1)		(1)
6	73	60	1	0	0	10	0	0	21	0	1	98	2	133
														0
7	88	56	0	0	0	17	5	1	17	0	4	97	3	144
	(6)					(5)							(1)	(6)
8	103	73	1	0	0	18	10	0	28	1	1	116	1	176
	(2)											(2)		(2)
9	75	54	3	0	0	12	3	0	18	1	0	90	2	129
	(1)											(1)		(1)
10	98	63	2	0	0	19	2	0	28	1	1	102	6	161
	(1)					(1)								(1)
11	81	70	2	0	0	12	1	0	29	0	0	107	0	151
	(2)					(1)						(1)		(2)
12	100	56	1	0	0	16	0	0	29	0	1	106	3	156
														0
合計	1,023	710	15	0	2	156	27	1	303	4	11	1,190	24	1,733
	(15)	0	0	0	0	(7)	0	0	0	0	0	(7)	(1)	(15)

※ 下段 () 内は、高速道路の出場件数を表す。

署 別	西消防署	4	0	0	97	15	1	172	3	9	704	18	1,023
	東消防署	11	0	2	59	12	0	131	1	2	486	6	710

救急出場件数の推移

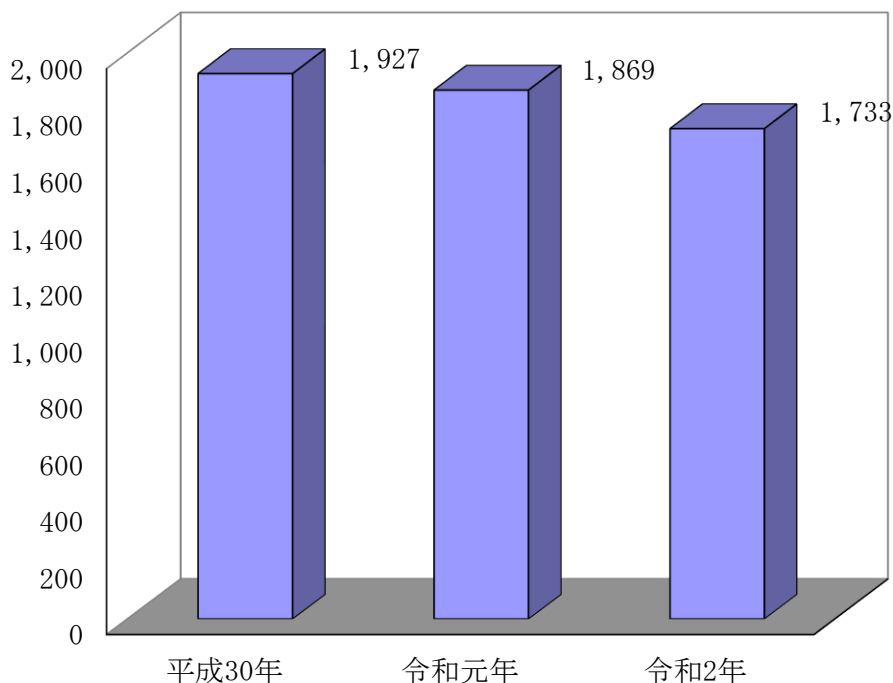
救急業務は、昭和38年に市町村の消防機関の事務として法制化され、平成3年8月には、プレホスピタル・ケア充実のため、救急隊員の行う救急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行う救急救命士の制度が設けられた。

平成15年4月から、救急救命士が行う処置は順次拡大され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。過去3年間におけるかすみがうら市内の救急出場件数は下表のとおりである。

令和2年における市内の救急業務実施状況は、救急出場件数1,733件、搬送人員1,622人であり、ともに昨年より100件強減少している。1日平均4.7件の割合で救急隊が出場し、市民の24人に1人が搬送されたことになる。

前年と比較して救急出場件数及び搬送人員が減少した理由としては、急病の傷病者に対する出場件数が115件の減少、急病の傷病者の搬送人員が118人減少していることから、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、病院へは行きたくない軽症者の救急要請が減少したのではないかと考えられる。

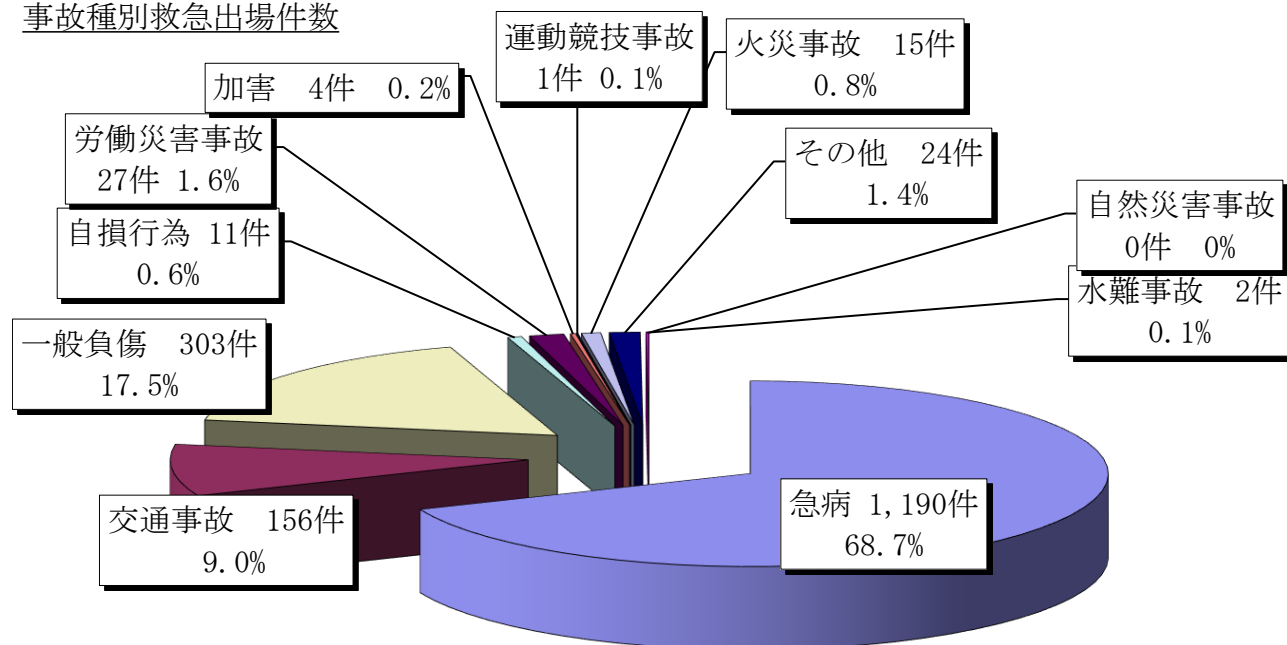
年別	事故種別	出場件数	火災事故	自然災害事故	水難事故	交通事故	労働災害事故	運動競技事故	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
平成30年		1,927	24	0	2	222	24	13	263	5	15	1,334	25
令和元年		1,869	25	2	1	161	24	12	298	6	16	1,305	19
令和2年		1,733	15	0	2	156	27	1	303	4	11	1,190	24



事故種別救急活動状況

出場・搬送	種別	合計	火災事故	自然災害事故	水難事故	交通事故	労働災害事故	運動競技事故	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
出場件数		1,733	15	0	2	156	27	1	303	4	11	1,190	24
搬送件数		1,592	2	0	2	143	26	1	286	3	6	1,113	10
不搬送件数		141	13	0	0	13	1	0	17	1	5	77	14
搬送人員		1,622	2	0	2	171	26	1	287	4	6	1,113	10

事故種別救急出場件数



- 火災事故・・・火災現場において直接火災に起因して生じた事故をいう
- 自然災害事故・・・暴風，豪雨，豪雪，洪水，高潮，地震，津波，噴火，雪崩，地すべりその他異常な自然現象に起因する災害による事故をいう
- 水難事故・・・水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう
- 交通事故・・・すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者が交通機関と接触したことなどによる事故をいう
- 労働災害事故・・・各種工場，事業所，作業場，工事現場等において就業中発生した事故をいう
- 運動競技事故・・・運動競技の実施中に発生した事故で直接運動競技を実施している者，審判員及び関係者等の事故をいう
- 一般負傷・・・他に分類されない不慮の事故をいう
- 加害・・・故意に他人によって傷害等を加えられた事故をいう
- 自損行為・・・故意に自分自身に傷害等を加えた事故をいう
- 急病・・・疾病によるもので救急業務として行ったものをいう
- その他・・・転院搬送，医師搬送，医薬資器材等輸送，その他の種別に分類不能のもの並びに誤報及びいたづらをいう

年齢別・事故種別搬送人員

種 別 性別・年齢	合 計	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ
		災	然	難	通	働	動	般	損	病	の	
		事	災	事	事	災	競	負	害	損	病	他
		故	害	故	故	害	技	傷	為	為	病	他
男	869	1	0	2	95	22	1	147	3	4	589	5
女	753	1	0	0	76	4	0	140	1	2	524	5
合 計	1,622	2	0	2	171	26	1	287	4	6	1,113	10
新 生 児 (生後28日以内)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
乳 幼 児 (29日～7歳未満)	35	0	0	0	9	0	0	6	0	0	19	1
少 年 (7歳～18歳未満)	46	0	0	0	9	0	0	14	0	0	23	0
成 人 (18歳～65歳未満)	508	1	0	0	118	21	1	68	3	5	286	5
老 人 (65歳以上)	1,032	1	0	2	35	5	0	198	1	1	785	4

傷病程度別搬送人員

種 別 程度別	合 計	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ
		災	然	難	通	働	動	般	損	損	病	の
		事	災	事	事	災	競	負	害	損	病	他
		故	害	故	故	害	技	傷	為	為	病	他
死 亡	34	0	0	0	2	0	0	4	0	1	27	0
重 症	119	1	0	1	3	2	0	12	0	2	97	1
中 等 症	615	0	0	0	29	16	0	82	0	2	480	6
軽 症	854	1	0	1	137	8	1	189	4	1	509	3
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,622	2	0	2	171	26	1	287	4	6	1,113	10

死 亡・・・初診時において死亡が確認されたもの。

重 症・・・傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。

中等症・・・傷病の程度が入院加療を必要とし、その期間が3週間未満のもの。

軽 症・・・傷病の程度が入院加療を必要としないもの。

その他・・・診察拒否等、医師の診断がないもの。

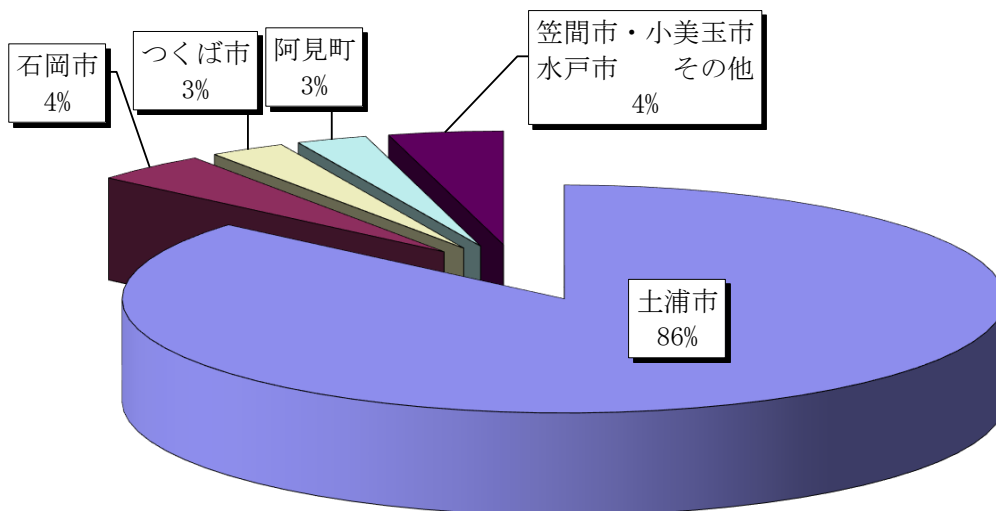
医療機関別搬送人員

市町村別	病院別 事故種別	火災 事故	自然 災害 事故	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害 事 故	運 動 競 技 事 故	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
土浦市	土浦協同病院	2		2	73	21		169	3	5	773	7	1,055
	神立病院				52	4	1	66			100	2	225
	霞ヶ浦医療センター				8			9	1		77		95
	その他の病院				1			5			18		24
石岡市	山王台病院				14			9			26	1	50
	石岡第一病院				7			2			6		15
	石岡医師会病院										1		1
	その他の病院							1			1		2
つくば市	筑波メディカルセンター病院				1			2			13		16
	筑波大学附属病院				1			3		1	11		16
	筑波記念病院										7		7
	その他の病院							4			2		6
阿見町	東京医大茨城医療センター				3			5			34		42
	その他の病院												0
笠間市	茨城県立中央病院				1						6		7
小美玉市	石岡循環器科脳神経外科病院				6			10			30		46
水戸市	水戸医療センター				2	1		1			2		6
	水戸済生会病院				2								2
	その他							1			6		7
合計		2	0	2	171	26	1	287	4	6	1,113	10	1,622

(人)

医療機関別に搬送人員をみると、土浦協同病院が最も多く1,055人で次いで神立病院の225人となっている。また、市町村別医療機関の搬送人員をみると、土浦市内の医療機関への搬送が86%とほぼ大半を占めている

医療機関搬送先状況



救助活動状況

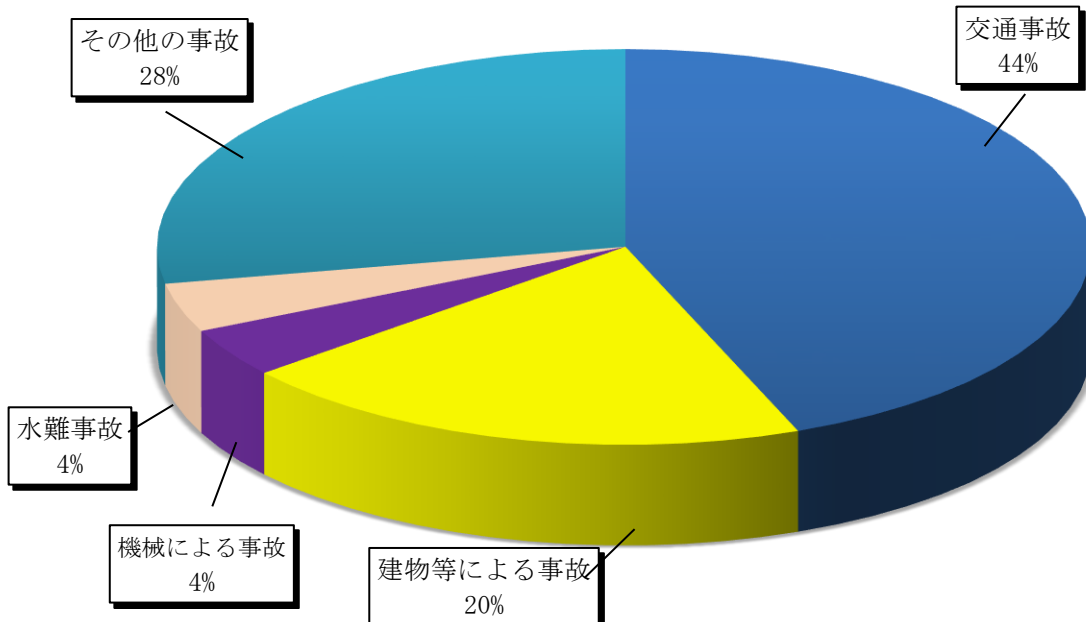
救助活動とは、火災、交通事故、水難事故、自然災害、機械による事故等から生命又は身体に危険が及んでおり、かつ、自らその危険を排除することの出来ない者について危険を排除し、被災者等を安全な場所に搬送する活動をいう。

令和2年度における当消防本部の救助活動状況は、出場件数25件のうち活動件数は22件、救出した人は20人でした。原因別にみると交通事故による救出活動が最も多く11件、次いでその他の事故となっています。昨年と比べると、交通事故、建物等による事故は増加し、自然災害事故は減少という結果となりました。

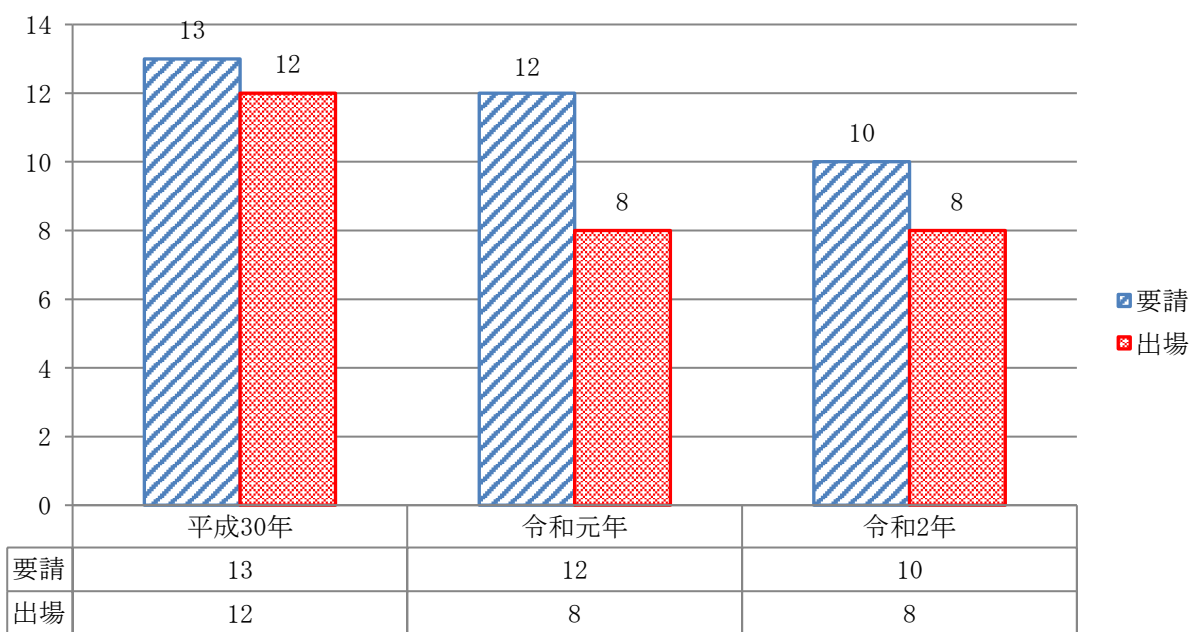
救助出場状況

事故種別 区分	火 災		交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 事 故	酸 欠 事 故	爆 発 事 故	そ の 他 の 事 故	計
	建 物	建 物 以 外										
出 場 件 数	0	0	11	1	0	1	5	0	0	0	7	25
出 場 人 員	0	0	118	10	0	12	45	0	0	0	70	255
活 動 件 数	0	0	10	1	0	0	4	0	0	0	7	22
活 動 人 員	0	0	99	10	0	7	36	0	0	0	64	216
救 出 人 員	0	0	10	1	0	0	4	0	0	0	5	20

救助出場件数



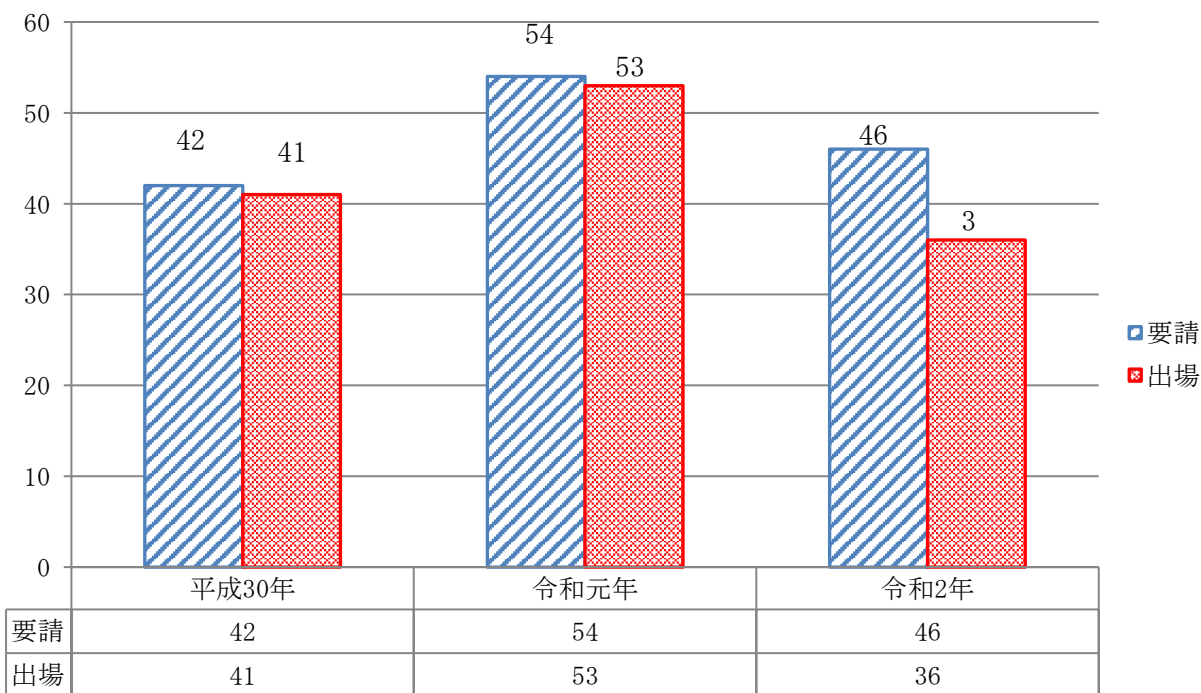
ドクターヘリ運用推移



救急現場において、以下の条項が認められているときに要請します。

- ・ 生命の危機が切迫しているか、その可能性があるとき
- ・ 重症患者であって搬送に長時間を要することが予想される時
- ・ 特殊救急患者（重症熱傷，多発外傷，四肢切断）で搬送時間の短縮を特に図るとき
- ・ 救急現場で緊急診断処置に医師を必要とする時
- ・ 多発傷病者発生の場合

ドクターカー運用推移



* ドクターヘリの要請件数及び出場件数が年々減少している理由は、土浦協同病院でドクターカーを運用していることから、かすみがうら市内の要請についてはドクターカーが第一選択になり、ドクターカーが出場しない土日祝日とドクターカーが他の事案に出場している場合にドクターヘリの要請となるためです。